

# 垂水一心

編集：垂水中央中PTA広報文化部 発行：垂水中央中学校PTA

垂水一心 第21号 March 2017

## わくわくどきどき！夢教室

1年 永田 啓士

今回の「わくわくどきどき！夢教室」で印象的だったのは、「順番は、まわってくるものじゃない」という言葉でした。夢を叶えるためには、待っているだけじゃ、自分の順番はまわってこない。自分から前に出ていかないと夢は叶わないということを改めて思いました。

僕も、男子ソフトテニス部に入っていて、小学校からソフトテニスをしていましたが、小学校のときは違い、選ばれた人しか出られない試合が多く、このままではだめだと思いました。部活で練習態度をおこられることがありました。その度に「気持ちを切り替えなきゃ」と思う日があり、なかなか変えることができませんでした。でも、太田さんらの話を聞いて、これからはしっかりと真面目に、自分に向き合いながら練習をしたいと思い、気持ちを改め、自分の力をみがいていきたいです。

努力したら夢を叶えることができる。その気持ちを毎日持って日々の練習にはげみたいと思いました。

「夢をこの手でつかむために！」



1年 深見 希華

私は太田選手の「メダルは努力した一つの結果なので、一回忘れてまた次の目標を目指す。メダルを取るまでの過程が大切」という言葉がとても印象強く、心に残っています。

自分が決めた目標に向かって、世界で戦った太田選手が言ったこの言葉は、とても重みと説得力がありました。私は、部活や習い事で結果を出すために、今まで頑張ってきたつもりでした。しかし、この言葉を聞いた今、振り返ってみると、結果を出すための過程が大切なことを忘れていたような気がします。これからは、一日一日の練習を一生懸命行い、自分が決めた目標に向かって、努力していきます。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

### 各学年部より今年度を振り返って

一年部 北川 佳子

平成二十八年四月六日。迎えた入学式は生憎の曇り空でした。「折角だから晴れたら良かったのに」そんな風に思いつつも、新一年生の入場を目にした時、緊張しながらも、晴れやかに誇らしげに胸を張って歩く子供達。曇り空など吹き飛ばすその姿に、頼もしさを感じました。初めての体育大会、文化祭や合唱コンクール。部活動や勉強も小学生の時とは大きく違います。壁にぶつかったり、悩んだり投げ出したくなることもあったと思います。その中で先生方の熱いご指導の下、大きな背中が引張ってくださった先輩達がいっぱいではないでしょうか。さあ、次はあなた達が、その背中を後輩達に教える番です。素敵な二年生になったあなた達を見ることが楽しみにしています。最後に一年間温かく指導して下さいました。本当に有難うございました。

二年部 上園 まゆみ

五月、一番の楽しみだった修学旅行では世界遺産である軍艦島見学という貴重な経験ができました。長崎の資料館では平和の尊さについて学ぶことができたと思います。九月、体育大会で優勝を目指し全力で取り組む姿を前に応援にも力が入りました。日々の部活動や勉強、様々な行事に追われながら限られた時間で練習した合唱、平和をテーマにした劇、モザイクアートには大きな感動をもらいました。早いもので四月にはよいよ三年生です。仲間と過ごせる一日一日を大切に、それぞれの進路実現にむけ、より充実した一年になることを願っています。

三年部 橋口 由香

今年度はPTA副会長ということで学校に行く機会も多かったのですが、いつも生徒達の礼儀正しさと明るさに感心させられました。さすが三年生と何回聞いたことでしょうか。体育大会文化祭、行事の度に中心となり、二年の後輩達に立派な姿を見せたことだと思います。今までの先輩方が築きあげた垂水中央をしつかり引き継いでみせた一年だったと思います。三年間、温かく見守って下さった地域の方、常に子供達のことを考えて毎日支えて下さった先生方に感謝をしつつ笑顔で中央中を巣立って行ってほしいです。本当に有難うございました。

### PTA専門部より

～今年度の活動を振り返って～

#### 研修部

部長 中濱 勝子

今年度の研修視察は、七月十五日、二十四名の参加で、垂水高校・鹿児島実業高校の二か所に行きました。地元垂水高校は、先生方との距離も近く、とてもよい環境で生徒がいきました。鹿児島実業高校も恵まれた環境の中で、部活・学業にとりくむ姿がとてすばらしかったです。また、一月二十五日市P連研修会では、幸せ専門家の深見ふわりさんの講演で、自分を好きになることの大切さを学びました。年間を通じ、参加していただいたPTAの皆さんありがとうございました。

#### 保健体育部

部長 井手 義次

今年度の保健体育部の活動は、六月の市P連バレーボール大会に始まり、学校保健委員会(年三回)、九月の体育大会、十一月の校内長距離走大会を行いました。

部長として行き届かぬ点多々あったと思いますが、各活動では、先生方をはじめ保健体育部員の皆様、活動に参加して下さいました保護者の皆様のご協力のおかげもあり、無事に一年を終えることができました。各行事を通して、子供達の成

#### 環境整備部

部長 園田 貴子

今年度の環境整備部の活動は、奉仕作業を残すだけとなりました。

夏休みの資源回収と奉仕作業は、暑い中ありがとうございました。運動場の雑草もきれいに刈られ、気持ち良く二学期を迎えられたと思います。文化祭の日に行われたバザーでは、ご家庭の雑貨や洗剤など、多数の物品を提供していただきました。皆様のご協力に感謝いたします。

#### 広報部

部長 中島 紀子

今年度も、学期ごとのPTA新聞の発行を無事に終えることができました。

一年を通してたくさんの方の学校行事があり、全てを記事にしたという想いの方が多く、にぎやかな話し合いができました。原稿依頼、写真選別、レイアウト作業などたくさんのご協力に大変感謝しております。作業の中で拝見致しました先生方や子ども達の文章に触れ、改めて垂水中央中学校の良さを知りました。部員の皆様、先生方、本当にありがとうございました。

### 卒業にあたって

PTA会長 菅井 政茂

三年生の皆さん、もうすぐ卒業ですね。無事に卒業し、それぞれの新しい道へ、力強く旅立たれることを切に願っています。皆さんがこの中学校で学んだことが、皆さんの人生の大きな糧になると信じています。私は社会に出て二十五年を超えましたが、生活の中で大切にしていくものがあります。それは、「信」という言葉です。信用される人間でありたい。人からの信頼を裏切りたいくない。人を信じられる心でいたい。そう思いながら暮らしています。「信用」は、一日にして成らず。しかし、「信用」を無くすのは一瞬です。一度無くしてしまうと取り戻すのに大変な苦勞を要します。

しかし、人は間違いを起こすものであります。間違いに気づき後悔したときには、自分の心に正直になり、勇気をもってやり直していただきたい。自分の人生、間違っただま進むことはありません。いつでもやり直せるのです。また、一人で辛いときには人を頼ってください。人は頼り、頼られて生きていくのです。

卒業される皆さん、人生はまだまだこれからです。一度きりの人生、楽しくいきましよう。夢や目標がある人はその実現に向けて頑張ってください。ない人もあせることはありません。夢がいつ現れてもいいように自己の能力を磨いてください。皆さんをいつまでも応援しています。

## 卒業

永遠のわれらが母校

濱里忠宣 作詞  
藤尾清信 作曲

- 一、桜舞う豊けき郷に  
本城の清き流れに  
あゝわれら三年の友と  
永遠に結びてゆかん
- 二、つつじ咲き 耀う丘に  
風わたる五月の夢に  
かえらざる三年の空を  
永遠にかかてゆかん
- 三、錦江の潮の行手に  
新しき歴史の道に  
刻みゆく三年の学び  
永遠にまもりてゆかん
- 四、火の島の熱きこころは  
あつこも悲しみの日も  
あゝわれら生きゆく力  
永遠のわれらが母校へ(へ)返し

## おめでとう！

### 旅立ちの時を迎えて

校長 明石 浩久

九か年の義務教育を終了し、卒業を迎える三年生の保護者の皆様にご心からお祝いを申し上げます。

ともに三年間を過ごせたことで、子どもたちが成長していく姿を間近で見守ることができました。心一つにして、持てる以上の力を引き出して九十九人でした。持ち前の朗らかさで、学校を明るく照らしてくれる九十九人でした。子どもたちの笑顔とひたむきな姿に、私は、幾度も力をもらい、自分自身を奮い立たせることができました。

いよいよ旅立ちの時です。寂しさは増すばかりですが、卒業生一人一人が輝く未来を、幸せな人生を歩んでくれるよう願ってやみません。

ご心配をおかけしたこと、行き届かなかったことをお詫びいたしますとともに、これまでお寄せいただいた保護者の皆様の温かいご理解と心強いご協力に対し、深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。





**二年二組 堀之内 三奈**

まず、第一部では、各クラスから二名の代表者が弁論を発表し、自分以外の考えや思っていること、目標など聞けて、勉強になりました。そして、友達のことをもっと知ることができたと思いました。

次に、第二部では、森下先生の講演でした。森下先生

**二年三組 井手 翔英**

立志のつどいを終えて、自分の気持ちの持ち方が大きく変わってきました。自分は、このままで良いのだろうかと思うようになり、よりいっそう努力していかなければならぬと思いました。

昔の人々は、今の僕たちの時期には、大人として扱われ



**二年一組 山下 千洋**

立志のつどいの前は、ただ昔の人の成人式みたいなことだから立志のつどいが終わっても、自分はまだ変わらないうらやまを感じていました。でも、立志のつどいでクラスの代表者の人の発表を聞いて、みんなそれぞれ将来の夢や考えがあつてすばらしいなと思いました。ぼくは、まだ将来の夢がないけど、夢ができたときに困らないように、しっかりと知識を身につけておきたいです。

森下先生の講演を聞いて、気持ちの切り換えの大切さを知りました。今まで何気なく過ごしてきたけど、立志のつどいをきっかけに、意味のある日々を過ごしたいと思いました。

色紙に書いた座右の銘を心に、いろいろなことに取り組んでいきたいと思っています。

**二年一組 山下 千洋**

お話は、自分が経験したことやまじえながら、すごく心に残る内容でした。

私は、自分の趣味には、集中して没頭していました。でも、勉強だけは、苦手で集中できませんでした。森下先生のお話を聞いてからは、勉強も趣味と同じで、集中して没頭できるようにやる気スイッチを入れればいんだという考えに変わりました。それに、このスイッチは、今から、明日、といつでも入れられるんだと森下先生はおっしゃっていて、心に残っています。森下先生の講演は、本当に楽しくて、時間があつという間に過ぎていました。

今回の立志のつどいを終えて、これまでの人生を振り返るいい機会になりました。これからの目標を立てて、その目標に向けて頑張ろうという気持ちになりました。

**保護者 海元 和美**

立志を機に、二年生全員が自覚や責任を促すための作文や「座右の銘」を考えました。第一部は、代表六名による作文発表。各々自分の夢やこれまで学んだことを、堂々と発表しました。第二部は、鹿児島実業高校の森下和哉先生による、自分が変わらぬという体験を交えた講演がありました。古くは十四歳で大人。改めて自分の人生について考え、具体的な目標を定める良い機会となったことと思います。

**保護者 安藤 幸子**

立志式に臨む二年生は、司会など式の運営を立派にこなして、代表者六名も、日々の生活で得たものや、将来を見据えての決意などを力強く発表していました。

また、祝辞では「チャンスの神様」について、講演では「スイッチをONにするのは自分」というお話をいただきました。

子ども達が、いつでもスイッチをONにし、チャンスの神様をとらえることができるように、親として支えていきたいと思う立志式でした。

- 【作文発表者】 【題名】**
- 1、宮嶋 海人 「僕が経験したこと」
  - 2、加治屋貴太 「努力は裏切らない」
  - 3、森山 心 「バレーで学んだことから」
  - 4、菅井 惇志 「将来の夢」
  - 5、川添 凜香 「気づけたことによって」
  - 6、前田 麗美 「感謝の気持ちと将来の夢」

# 希望の未来へ



**3年1組**

**保護者 和田志保子**

三年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。新しい制服を身にまとい中学校の門をくぐったのがこの前のように感じられます。

この三年間、本当にあつという間でした。たくさんの友とも出会い・勉強・部活動・学校行事など充実した学校生活を送り、多くのことを学び心も体も大きく成長したことでしょう。私たち保護者も、三年生からは感動・喜びをたくさんもらいました。これからは進む道はそれぞれ違いますが、いろいろな経験をし、希望を持って前へ進んでください。皆さんの成長を心から応援しています。三年間、お世話になった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



**3年2組**

**保護者 伊集院 裕子**

真新しい制服に身を包み、幼さの残る顔で入学式に臨んだ子供達の姿が、昨日のことの様に思い出されます。

子供達は部活動や様々な学校行事に一生懸命に取り組み、身も心も大きく成長しました。何事にも真剣に向き合ってきた姿は、たくさんの感動をくれた合唱にも表れていたと思います。

私自身、役員をさせていただいたことにより、学校との関わりや保護者の方々との繋がりも広がりました。周りの方と子育てに対しての悩みや不安を共有し乗り越えてきたことで、自分自身も親として成長することができたのではないかと感じています。

それぞれに選んだ進路で夢に向かって頑張ることが、これまでご指導いただいた先生方への恩返しになるということを胸に、子供達には精一杯頑張ってもらいたいと思います。三年間子供達を見守り、ご指導いただいた先生方へ感謝申し上げます。有り難う御座いました。



**3年3組**

**保護者 岩切里美**

袖や丈の長い制服で、胸を張って入場してきた入学式。あれから三年の月日が過ぎ卒業を迎えようとしています。この中学校生活でたくさんのことを学び、みんな成長したことでしょう。これまで、ご指導いただいた先生方、保護者の皆様、本当に感謝申し上げます。これからこの垂水中央中学校を卒業していく子供達が更なる成長をしていく姿を見守ってください。

子供達、たくさんの方々が見守っています。前を向いて進んで行ってください。応援しています。

**原口 旺治郎**

卒業にあたり三年間を振り返ってみると、とても短く濃いものだったと感じました。私は小規模校出身のため一クラス約三十名、同級生だけで約百名という数に圧倒されてきました。ですが、日を重ねるごとに喜びや悔しさを共有する楽しさを知り、これを重なるにない経験をすることができました。一年生では基本となる土台作り。そして二年生では自分の柱となる軸を立て、三年生では臨機応変に対処できる柔軟性を身につけることができた。このことを身に付けるには、これまで出会った先生方、中央中の先輩方、そして同級生。たくさんの方々の支えがあったからこそだと思います。この三年間は、自分にとってもすごく大きな財産になりました。今後中央中ブライドを胸にいろいろな場面をかかしていきたく思います。三年間ありがとうございました。

**松下 未来**

私たちは、この三年間で多くのことを学びました。入学した頃は、初めての中学校生活、初めて話す人が多く緊張してしまっていました。そんなとき、登校すると校長先生が笑顔で一人一人に声をかけてくださいました。その優しい声を聞くたびに、良い一日のスタートを切ることができました。そして、体育大会・文化祭・合唱コンクールなどの一つ一つの行事で学校・学年の絆が深まっていきました。そのたびに先生方との信頼も深まりました。何事にも協力し助け合い、語り合った三年間。その仲間のいるクラスが一番落ちつる場所となっています。この垂水中央中学校で出会った最高の仲間、そしていつもそばで見守り支えてくださった先生方への感謝の気持ちを忘れずに、一歩一歩前へ進んでいきます。

**中原 吾心**

僕は、中学校を卒業するにあたり、たくさんの思い出を作ってきた仲間との別れと、個々の目標へと進むことに少しのさびしさや大きな喜びを感じます。三年生で初めて総務になり、これまでになかった責任を感じ、人の前に立つて何かすることの大変さや学びました。様々な行事を通して、クラスが丸となって競えたことが一番の思い出です。中学生になって出逢った友達や先生方、そして家族への感謝の気持ちを忘れず将来の夢に向かって頑張っていきたいです。

**川井田 敬司**

中学校生活三年間はともあつという間でした。三年生は、一人一人が個性的で何事にも一所懸命に取り組む学年だったと思います。体育大会では、私達にとつて中学校生活最後の体育大会だったということもあり練習からとても熱が入りました。私は、白組の副団長という立場で初めは不安でいっぱいでしたが、仲間のおかげで乗り越えることができました。各団の副団長を中心に全体がまとまり大成功で終わることができた。三年生らしい立派な姿を後輩達に示すことができたのではないかと思います。

これからそれぞれの道へ進むことになりませんが、残りの中学校生活を大切に過ごし、三年間共に歩んできた仲間と最高の卒業式にしたいと思っています。そして、これまで培ってきた、何事にも一生懸命に取り組み、気持ちを忘れずに高校でも頑張りたいと思います。

**岩元 凜**

卒業をするにあたり振り返ってみると行事に対して積極的に取り組んできました。特に生徒会活動や実行委員長などはなかなか経験することができないことなので今ではやっとなかなか思いますが、行事があるたびにみんなで協力し合いたくさんの感動をつくってききました。この団結力はこれからも引き継いでいってほしいと思います。ですが垂水中央にはまだ足りない所がたくさんあると思います。そこは、みなさんの力で良いものに変えていって下さい。私達はこれから目標に向かって進んでいきます。中学校生活三年間で学んだことは高校でも生かしていきます。垂水中央卒業生として堂々と部活や勉強に励んでいきたいと思っています。これからが大変だと思うので、新しい仲間と共にお互い頑張っていきたいと思います。

**吉村 響音**

三年間通い続けた思い出が詰まっている校舎。三年間ともにかっこよく、一緒に学んだ仲間。中学校三年間はあつという間に過ぎていきました。みんなの学校行事に取り組む姿勢、表情はともたのしく大好きでした。一つ一つがともも大切な思い出深く心に刻まれています。先生方にたくさん注意されたいりやまをいただきました。先生方にたくさん感謝の気持ちでいっぱいです。この取り組む姿勢が三年生として良い後姿を見せられたと誇りに思います。もうすぐ私達はそれぞれの道に進みます。その道で中央ブライドを持つてお互い頑張っていきたいです。どんなときでも堂々と前を向いて、思い出とともに進もう!!